

編集後記

(56巻 第3号 2010年3月)

バンクーバー冬季オリンピックが幕を閉じた。4年前の編集後記でも「荒川選手のイナバウアーでの金メダル」についてコメントした。今回は残念ながら日本の金メダルはゼロとなった。逆に、韓国や中国の金メダル獲得数はすさまじかった。また、ロシアの凋落ぶりにも驚いた。

このような結果は、今回のオリンピックでは「たまたまそうなった」というような偶然の産物ではなく、補助金や施設整備を含めたスポーツに対する各国の姿勢が表れた結果だと思う。スポーツは大きな産業にはなりにくく、経済面を重視すればお金を投資するのはもったいないという意見もあろう。メダル数を競うのはいかなものかという意見もある。しかし、底辺のスポーツ振興を含め、このような投資が出来る国こそ、本当に豊かな国といえるのかもしれない。

フィギュアスケートのキム・ヨナ選手がフリーの前のインタビューで「明日金メダルを取るのは、神様に選ばれた人だと思う」という言葉が一番印象に残った。すべての努力をし尽くした選手のみが言える心からの言葉であるように思う。競技の出来不出来は別にして、真央ちゃんはやっぱりキム選手にはかなわなかったのだろう。

(小川 修)